



モモジロコウモリ

# 東京都のコウモリ

改訂レッドデータブック「1.哺乳類」(環境省2002)の選定種・亜種の2/3を占めているにも関わらず、生態的知見が極端に少ないこと、調査が容易でないことなどから、自然環境調査の盲点となっているコウモリ類。東京都については近年の調査が全く行われておらず、情報の空白地帯となっていました。そこ

で、私が所属する研究グループでは1995年から奥多摩地域を対象にコウモリ類の分布調査を開始し、これまでに2科6種のコウモリ類の生息を確認したほか、いくつかの注目される知見を得ることが出来ました。今回は現在も継続中のこの調査について紹介します。【東京本社自然環境調査室・重昆達也】

## はじめに

東京都(島嶼部を除く)では、これまでに、11種のコウモリ類が記録されていますが、その多くは明治から昭和前半にかけての断片的な採集記録です。昭和20年以降の情報に基づく「東京都の野生生物種目録(東京都環境保全局1998)」には、5種のコウモリ類しか挙げられていません。しかも詳細な分布や生態的な知見はなく、現在のコウモリ類相に関してはほとんど情報がないというのが現状です。そこで、まず基礎情報としてのコウモリ類相を明らかにするこ

とが急務と私たちは考え、1995年から奥多摩地域を対象にコウモリ類の調査を始めました。

## 調査方法

奥多摩地域を流れる秋川流域を主なフィールドとして選び、まず目視とバットディテクター(コウモリ探知機)を用いてコウモリ類を探し始めました。この結果、秋川には春先と秋を中心に数種のコウモリ類が飛翔していることが確認されましたが、バットディテクターではこれらの種を特定することは不可能です。そこで、環境省の許可を得て、

1999年と2000年の春にカスミ網を用いた捕獲調査を秋川と多摩川で実施しました。また、コウモリ類がねぐらとして利用しそうな鍾乳洞、隧道、大径木、家屋等の探索も並行して実施しました。

## 確認されたコウモリ類

捕獲調査を中心とする調査の結果、これまでに2科6種のコウモリ類が奥多摩地域に生息していることが確認されました(表1)。これまでの調査により得られた、注目される知見をいくつか紹介します。

表1 奥多摩地域に生息しているコウモリ

No.	科名	種名	確認地	確認状況・備考
1	キクガシラコウモリ	コキクガシラコウモリ 東京都レッドデータ：(国の希少種に相当する種)	青梅市、奥多摩町、 檜原村	青梅市、奥多摩町の鍾乳洞、檜原村の隧道で確認。檜原村の北秋川では数ヶ所で川面上で採餌する個体を確認。
2	ヒナコウモリ	モモジロコウモリ	あきる野市、奥多摩町、 檜原村	奥多摩町の隧道で200個体以上を確認。秋川上流域では水面上で採餌する個体が各地で見られる。
3	ヒナコウモリ	モリアブラコウモリ 環境省レッドデータ：絶滅危惧 B類	あきる野市、青梅市、 檜原村	いずれも河道上空5~20m付近を川沿いに飛翔。あきる野市の秋川ではアブラコウモリと同所的に採餌していることが確認された。
4	ヒナコウモリ	アブラコウモリ	あきる野市、昭島市	いずれも捕獲による確認。多摩地域の市街地とその周辺で観察されるコウモリのほとんどが本種である可能性が高い。
5	ヒナコウモリ	ヤマコウモリ 環境省レッドデータ：絶滅危惧 類	あきる野市	あきる野市の2ヶ所の大径木に春季ねぐらを確認。1ヶ所は伐採時に発見(20個体以上が利用)。もう1ヶ所では最大130個体を確認。
6	ヒナコウモリ	ヒナコウモリ 環境省レッドデータ：絶滅危惧 類	あきる野市、檜原村	あきる野市の秋川上空を飛翔する個体を確認。檜原村では2ヶ所で人工物を利用した春・秋季ねぐらを確認(約30個体と単独)。

## 参考・引用文献

- 1) 浦野守雄. 1998. 西多摩郡檜原村で確認されたモリアブラコウモリ *Pipistrellus endoi* について. 東京都の自然, 24:22.
- 2) 浦野守雄・重昆達也・高水雄司. 2002. 東京都奥多摩地域のコウモリ類(1)あきる野市、青梅市、檜原村における採集記録. 東京都立高尾自然科学博物館報告書, 21: 13-20.
- 3) 東京都環境保全局. 1998. 哺乳類全種目録(本土部), 東京都の野生生物種目録 1998年版, 41.
- 4) 東京都環境保全局. 1998. 哺乳類(本土部), 東京都の保護上重要な野生生物種 1998年版, 26.
- 5) 前田喜四雄. 1984. 日本産翼手目の採集記録( ). 哺乳類科学, 49: 55-78.
- 6) 前田喜四雄. 1986. 日本産翼手目の採集記録( ). 哺乳類科学, 52: 79-97.
- 7) 前田喜四雄. 2002. モリアブラコウモリ. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック -, 1 哺乳類: 70-71.
- 8) 吉行瑞子. 1990. 日本の哺乳動物 アブラコウモリ類(2). 日本の生物, 4(5): 74-78.

## モリアブラコウモリの発見

1997年に研究グループの1人が檜原村の秋川で釣りをしていた際、偶然針に掛かって捕獲された個体により、都下から初めて記録されたコウモリです。その後の捕獲調査では、あきる野市、青梅市、檜原村の渓流域に生息することが確認されました。

本種はレッドデータブック（環境省2002）の絶滅危惧 B類に該当します。これまで、標高400～1000m程度の森林地帯で発見されることが多く、人家周辺では見られないという知見以外には生態的な情報がほとんどない謎のコウモリでした。その本種が市街地に近接する標高160m程度の河川で見つかり、さらに近縁種で家屋性のアブラコウモリと同所的に



モリアブラコウモリ

採餌しているのが確認されるなど、本種の生態的な知見を塗り替える可能性のある発見となりました。

山麓地などでは、これまでアブラコウモリと認識されているコウモリ

に本種が含まれている可能性が高く、重要な種であるにもかかわらず、これまで見落とされていた可能性が考えられます。

## ヤマコウモリの春ねぐら

ヤマコウモリは翼開長40cmにも達する大型のヒナコウモリ類です。あきる野市域の2ヶ所で、ケヤキの樹洞が春先のねぐらとして利用されているのが見つかりました。そのうち1ヶ所では約20個体が見つかりましたが、樹木伐採時の発見であり、ねぐらは消失してしまいました。もう1ヶ所では、通常約30個体の利用が見られ、数日間だけ合計130個体もの大群が出洞しました。未発見の別の樹洞を利用していただ体群が何らかの理由により一時的に移動してきたものと予想されます。本種はねぐらを樹洞に依存しており、避難場所などを含めた複数の樹洞を利用しているものと考えられますが、樹洞を持つ大径木は奥多摩地域でも急速に失われています。本種のような樹洞性コウ

モリ類を保護するには、早急な調査を実施することが不可欠であるほか、大径木を計画的に保全するような対策を施すことが望まれます。

## 春先と秋に多いコウモリ類

これまでの調査の結果、奥多摩地域の河川沿いでは、春先と秋にコウモリ類の種数・個体数は増える傾向にあることが分かってきました。

特に、春先は河川の水面上で採餌するコウモリが多く、例えば秋川では同時に5種のコウモリ類が見られる場所もありました。春先は森林から発生する昆虫が少ないため、餌を河川から羽化する水生昆虫に依存していると考えられます。このことから水生昆虫の豊かな河川が存在が春先のコウモリ類の生存にとって重要な環境要素になっていることが示唆さ

れます。一方、初夏から秋口までは樹洞性のコウモリ類（モリアブラ、ヤマ、ヒナ）は、見つけることが難しくなります。ちょうど繁殖期（分娩・保育期）に姿を消してしまうのですが、これが繁殖活動に関係する何らかの個体群移動なのか、単に採餌場所の変化に伴うものなのかはよく分かりません。秋には樹洞性のコウモリ類も再び増加し、そのまま晩秋まで見られることから、冬眠はこの地域で行われている可能性が高いと予想しています。

## 未だ謎の多い東京都のコウモリ類

さて、今回はこれまでの調査で明らかになった知見の一部を紹介しましたが、東京都のコウモリ類についての研究は緒についたばかりです。

生息が予想されながら確認・再確認されていない種も多く、未だ種相の把握にはほど遠い状態です。しかし、こうした地域別の種相や生活史を明らかにしていくことが、まだまだ情報の少ないコウモリ類の生態把握や保全対策を考える基礎資料として重要なことから、今後も調査を継続していきたいと考えています。



ヤマコウモリ



ヒナコウモリ